

# 日中対照言語学会第31回大会（2014年度春季大会）のご案内

## 記

日 時：2014年5月25日（日）午前9時00分より午後5時30分まで

会 場：大東文化会館ホール（池袋で東上線に乗り換え、各駅停車で7番目の東武練馬駅下車、徒歩4分）

参加費：1000円（会員、非会員共通）

## プ ロ グ ラ ム

- 受付（9：00－） 総合司会 竹島毅（大東文化大学）
- 大会開催挨拶 鄭新培（大東文化大学） 9：20－9：30
- 開会の辞 高橋弥守彦（大東文化大学） 9：30－9：40
- 研究発表1. 所有関係の現れる中国語の受身文について 9：40－10：15  
劉爾瑟（大東文化大学博士後期課程1年）
- 研究発表2. 日中因果関係の下位分類について 10：15－10：50  
－目的表現と条件表現との連続性について－  
劉会禎（北京外国語大学博士後期課程） 以上司会 加藤晴子（東京外国語大学）
- 休憩**（15分：10：50－11：05）
- 研究発表3. 中国語における結果補語の文法性と結果構文の繋がり 11：05－11：40  
李鵬（大東文化大学博士後期課程2年）
- 研究発表4. 可能表現における日中対照研究～自動詞・他動詞を中心に～ 11：40－12：15  
魏美平（大東文化大学博士後期課程3年） 以上司会 安本真弓（高千穂大学）
- 昼休み**（60分 会館の近くにレストラン多数あり） 12：15－13：15
- 講演 日本語における使役文と受身文との似通い 13：15－14：15  
－使役文からの検討－ 早津恵美子（東京外国語大学）
- 研究発表5. “被字句”の受け手と仕手との関係について 14：15－14：50  
高橋弥守彦（大東文化大学） 以上司会 続三義（東洋大学）
- 休憩**（15分：14：50－15：05）
- 研究発表6. 漢語「不便」について－日中対照言語史的考察－ 15：05－15：40  
張潔（京都大学大学院）
- 研究発表7. 中国語の“能”と“会” 15：40－16：15  
王慶（九州外国語学院・専任講師）
- 研究発表8. 程度表現の対照研究－命令・依頼のモダリティを中心に－ 16：15－16：50  
時衛国（愛知教育大学） 以上司会 王学群（東洋大学）
- 総会 16：50－17：20
- 閉会の辞** 続三義（東洋大学） 17：20－17：30
- ※当日入会申し込み、学会費の納入も受け付けます。（年会費：社会人4000円、院生2000円）

## 大会発表者要旨などの情報

### 研究発表 1

氏名：劉爾瑟

所属：大東文化大学大学院博士後期課程一年

テーマ：中国語の所有関係を持つ受身文について

要旨：

“NP<sub>1</sub>+的+NP<sub>2</sub>”に所有関係が認められ場合、以下の構造を用いて“被动句”として表すことができる。

①NP<sub>1</sub>+ “的” +NP<sub>2</sub>+ “被” +NP<sub>3</sub>+VP

②NP<sub>1</sub>+ “被” +NP<sub>3</sub>+VP+NP<sub>2</sub>

具体例を示せば、“我的钱包”のように、NP<sub>1</sub>とNP<sub>2</sub>に所有関係が認められる場合、“他的钱包被小偷偷了（彼の財布はスリにすられた）。”“他被小偷偷钱包偷了（彼はスリに財布をすられてしまった）。”のように、①②両方の構造に当てはめられることができ、NP<sub>1</sub>（或いはNP<sub>1</sub>のNP<sub>2</sub>が）NP<sub>3</sub>によって被害を被ったという事象（出来事）を表すことができる。しかしながら、中には“NP<sub>1</sub>+的+NP<sub>2</sub>”に所有関係が認められる場合でも、①②両方に適応できない、もしくは不自然になる場合もある。

(1) 我的电脑被他弄坏了。（私のパソコンは彼に壊された。）

(2) ?我被他弄坏了电脑。（私は彼にパソコンを壊されてしまった。）

このように、“NP<sub>1</sub>+的+NP<sub>2</sub>”に所有関係が認めれる場合、無条件で①②に適応できるわけではないことがわかる。そこで本稿では、日中対照コーパスから、①②に当てはまる実例を調査し、両者の互換関係について検討する。

### 研究発表 2

氏名：劉会禎

所属：北京外国語大学博士後期課程

発表題目：日中因果表現の下位分類について—目的表現と条件表現との連続性を中心に—

発表要旨：日本語では、因果表現に対して従属節の表現特徴を中心に、二分分類（言語学研究会(1985)田窪(1987)など）、三分分類（前田(2009)など）、四分分類（蓮沼(2001)など）と異なる分類が行われている。一方、中国語では、主節と従属節の関係を中心に研究され、二分分類（張(1991)劉等(2001)など）、三分分類（呂(1957)と王(1985)では異なる三分分類をしているが）がある。上記のような下位分類は分類方法が異なるものの、因果表現カテゴリ内で行われているのが共通しているが、目的表現や条件表現との連続性についても視野に入れていないので、十分な考察や整然たる分類とは言えがたい。

本発表は日本語の「カラ」「ノデ」「タメ(ニ)」と中国語の“因为”“由于”“既然”を比

較研究対象とし、「動機付け」と「条件付け」という概念を用いて因果・目的表現、また因果・条件表現との連続性を解明し、日中因果表現に統一した下位分類を与えることを試みるものである。

### 研究発表 3

大東文化大学 中国語言語文化学博士課程後期二年 李 鵬

テーマ：中国語における結果補語の文法性と結果構文の繋がり

要旨：本稿では取り扱うものは「非対格仮説」(unaccusative verb)による中国語における結果補語(resultative complement)の能格(ergative)性と非対格(unaccusative)性の性格を論じるものである。それには、少なくとも以下の問題が絡んでくると思われる。一つ目は中国語における結果補語の文法的位置である。伝統的な文法研究では、結果補語は補語の下位分類の一つと看做されてきているが、尚且それに関する研究は結果補語そのものについての検討が多く見られ、例えばLCSから結果補語の意味分析(および分類)、GB理論からの結果補語の成り立ち、結果構文(resultative construction)から見る結果補語の類であるが、本稿はこれらの問題に立ち入る前には結果補語を含む複合動詞の全体像を総括的に見てみようと思う。なぜなら、結果補語を補語の下位分類に入れるのはあくまでも意味上を重視した結果であり、文法形式上での考慮も入れるべきだからである。もうひとつ大切なのは結果補語と結果構文の関係である。今までの研究では、「語」と「文」の概念をあやふやにしたまま、論を展開させるものはあまりにも多く見られ、本稿では結果補語と結果構文、いわばレキシコンと構文(construction)の相互関係も視野にいれ、結果補語の文法性を明らかにする。

### 研究発表 4

発表者：魏美平(大東文化大学外国語研究科日本語言語文化専攻博士後期3年)

テーマ：可能表現における日中対照研究～自動詞・他動詞を中心に～

要旨：可能表現で可能を表す場合もあれば、非可能表現で可能を表す場合もある。張威(1998)は日本語の自動詞が可能の意味を表すことができると主張している。例えば、「この窓はどうしても開かない」という例文の「開かない」が可能の意味を表していると言う。だが、電車の窓に貼っているシートに「この窓は開けられません」と書かれている。前者と後者の「開かない」「開けられません」を入れ替えることができない。どのような場面状況で自動詞を使うのか、他動詞の可能形を使うのかについて考察する必要がある。

a. なぜか公衆電話がうまく掛からないので、歩きで直行。

b. 電話が掛けれられない(発信できない)症状について、解決方法を案内します。

aの「掛からない」は、私は何度も電話を掛けたのに、電話のせいで電話を掛けるということが実現しなかったと考えられる。一方、bの「掛けれられない」は電話のことだけではなく、自分の能力が十分ではないことがあって不可能であった様子が感じられる。aとbを中国語に翻訳すればいずれも「打不通」になる。また、中国語文法の中では日本語のように自動

詞と他動詞という定義がないため、中国人学習者の学習過程でより一層難しくなると考えられる。中国人学習者に教える時に、例文 a と b の違いは何であるのかをはっきりと説明する必要があると思われる。

本研究は日本語の自動詞・他動詞を焦点に当てて、可能形を使用する自動詞・他動詞と使用しない自動詞・他動詞の形態や意味から分析しながら、その違いを探ってみたい。そして、これまでの研究を踏まえ、日本語の自動詞と他動詞に対応する中国語の表現を対照しながら、両国語の可能表現の違いを明らかにしたい。

## 講演

ヒト：早津恵美子（専門：日本語学 大学：東京外国語大学大学院総合国際学研究院）

テーマ：「日本語における使役文と受身文の似通い—使役文の側からの検討—」

要旨：使役文と受身文とは典型的には異なる事態を表現するタイプの文である。したがって、ふつう使役動詞（「V-(サ)セル」）と受身動詞（「V-(ラ)レル」）を入れかえることはできない、あるいは入れかえると別の事態を表現してしまう（「親が子供に食器を洗わせる（vs. 洗われる）」「花子が先生にほめられる（vs. 先生をほめさせる）」）。しかし、ある条件のもとでは、「V-(サ)セル」による表現と「V-(ラ)レル」による表現とが、微妙なニュアンスの違いはあるものの、同じ一つの事態を指すことができる場合がある（「似通い」とよぶ）。「このことは誰にも {気づかせては：気づかれては} ならなかった」「恋人にこんなことを {言わせる：言われる} ようになったらおしまいだ」「戦争で {子供を死なせる：子供に死なれる}」等。この現象について主として使役文の側から、(1) 使役文と受身文のどのような性質が両者の似通いを支えているのか。(2) 使役文のうちどのような性質をもっているものに受身文との似通いが生じるのか、(3) 似通うとしても使役文と受身文とにどのような違いがあるか、について考える。

## 研究発表 5

発表者：高橋 弥守彦

テーマ：“被字句”の受け手と仕手との関係について

要旨：筆者の調査（2013）によれば、下記の例文に示す通り、“被字句”の「受け手」は一般にヒト、組織、カラダ、モノ、コト、空間などであり、「仕手」はヒト、組織、カラダ、モノ、コトなどである。本稿では、受け手（例 1, 2）と仕手（例 3, 4）で作るこれらの名詞の関係を分析し、“被字句”における意味構造「受け手+仕手の影響を受ける行為や感情など」の再分析をする。また、受け手と仕手の名詞格を調査する。

受け手（主体）／仕手（客体）

- (1) 他不时被寒风呛得咳嗽着。(ヒト、『講読』②p. 44)  
彼は寒風にむせて、ときどきせきこんでいた。(『講読』②p. 50)
- (2) 可是窑汉的胳膊也被撕了一条长长的血口子……(カラダ、『人民』93-3-111)  
だが自分の腕も、引き裂かれて大きい傷を負ったのだ。(同上)
- (3) 儿子真是争气，以全校高考总分第三名的好成绩被上海财经大学录取。(組織、『人

民』97-10-75)

県の高考(全国大学統一入試)で三番になって上海財経大学に合格するなんて、息子のやつ、やってくれたもんだ。(『人民』97-10-74)

- (4) 可是最近一个月, 他竟被一件事情弄糊涂了。(コト、『人民』90-10-96)  
だがこの1カ月、あることで頭がおかしくなってしまった。(同上)

#### 研究発表6

氏名: 張潔(京都大学大学院/chouketsu1127@gmail.com)

テーマ: 漢語「不便」について一日中対照言語史的考察—

要旨: 古代中国語由来の漢語「不便」(ふびん)は、現代語では「便利でないこと。都合の悪いこと」を表している。古代中国語から受容された当時は中国語の意味そのまま踏襲したと思われるが、長年にわたって移植され、その定着の過程においては、時代ごとに意味・用法上の異同が多く見られる。たとえば、平安時代以降は「かわいそうなこと・気の毒なこと」「かわいいと思うこと」を表すようになり、近世以降は読み方、表記が変化し、「便利でないこと」という意味に捉える時は「不便」が用いられ、「かわいそう」という意味に捉える時は当て字「不便・不憫・不愠」などが用いられるようになってきた。本論では、変体漢文体、和文体など種々の文献資料に用いられる「不便」の用例を文脈とともに分析し、意味変化の流れをまとめ、品詞変化および用法の変化など文法的機能との関わりを考慮しながら、考察を行なう。

#### 研究発表7

発表者: 王慶(九州外国語学院)

テーマ: 中国語の「能」と「会」

要旨: 贺阳(1992), 齐沪扬(2002)で「能力语气」とされる「能」と「会」は似て非なるものである。この2つはさまざまな側面において共通性と相違性を有している。

- (1) a. \*张三能日语。  
b. 张三会日语。  
(2) a. 张三能说日语。  
b. 张三会说日语。

(1)と(2)にある「能」と「会」は、ともに「能力」を表すものである。(1)と(2)の対立からわかるように、「能」は本動詞にならず、動作動詞に付加されなければならないようである。一方、「会」は、本動詞でもあり、助動詞でもある。しかし、(3)において、「能」と「会」の容認性が逆転する。これはなぜであろうか。

- (3) a. 我病好了, 能上班了。  
b. \*我病好了, 会上班了。

同じ「能力」を表す(4)の「能」と「会」はまた異なる振る舞いをしているようである。

- (4) a. 张三很能吃。  
b. 张三很会吃。  
c. 张三很能吃, 一顿能吃四大碗饭。  
d. \*张三很会吃, 一顿会吃四大碗饭。

- e.\*张三很能吃，荤素搭配营养均衡。
- f. 张三很会吃，荤素搭配营养均衡。

さらに「可能性」を表す(5)の「能」と「会」にも違いがあるようである。

- (5) a. 张三的愿望能实现。
- b. 张三的愿望会实现。
- c. 张三的愿望没能实现。
- d.\*张三的愿望没会实现。
- e. 张三的愿望不能实现。
- f. 张三的愿望不会实现。

本発表では、「能」と「会」を通して、「能力」、「可能性」とは何か、その間にある接点を探ってみる。

### 研究発表 8

ひと：時衛国（愛知教育大学）

発表題名：程度表現の対照研究—— 命令・依頼のモダリティを中心に——

発表要旨：本研究は中国語と日本語における程度表現について、発話・伝達のモダリティの一つである〈働きかけ表現〉における命令・依頼のモダリティを中心に考察し、両言語の共通点と相違点及びそれぞれの文法的特徴などを明らかにしようとするものである。

中国語では、「{你/×我/×他}稍微想想」のように、他者に対し命令を下す場合は、第二人称でなければ適格ではない。一方、日本語においても、「{きみ/×ぼく/×彼}は少し考えてみろ」のように、第一人称と第三人称は不適格で、第二人称のみが適格と言える。命令表現の場合は第二人称しか許容されないという点では両言語は共通していると考えられる。しかし、中国語では「×稍微想」のように動詞の重ね型を取らなければ非文法的であるということはよく知られている。動詞の重ね型は命令のモダリティの形成にも影響を与える要素と考えることができる。それに対し、日本語では、「すこし考えなさい」「ちょっと待ってくれ」のように、多様な形式による命令のモダリティ表現が可能であり、必ずしも決まった形式によって表現されるとは限らない。この点では、日本語は中国語と大きく違っている点と言える。また、「もっと考えなさい」のように、量の増加を命令する場合にも中国語と違っている。「×更考虑」のように、〈もっと〉に対応すると見られる〈更〉は命令のモダリティの形成には適格ではないので、〈再〉によって表現されることになる。一方、〈再〉と〈もっと〉は共通点もあれば、相違点もある。それで、具体的な場面を取り上げてその違いを説明する必要があるだろう。そして、両言語の程度表現における命令・依頼のモダリティについて様々な観点から追究していく。